

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100187		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム今泉1階		
所在地	田村市船引町今泉字台の前11-2		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おいしい物を提供し、日々笑顔のある生活を送る

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業所のモットーを「利用者に喜んで貰える支援」に定め、実現に努めている。 2. 地域住民との交流が盛んになって来ており、事業所の地域での理解が進んでいる。 3. 職員の内外での研修機会が多く、多くの職員が参加している。 4. 事業所のバックアップもあり職員が積極的に資格取得に臨んでいる。 5. 長く勤めている職員が多く、利用者との信頼関係が出来ている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々とのふれあいを理念に掲げ毎日の申し送り後全員で唱和し共有している	家庭的な雰囲気の中での利用者の安心な暮らしの支援と、地域との関わり合いを大切にする理念の下に全職員がその実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の踊り等には、入居者様と共に参加している。また町内会にも入り「今泉だより」毎月回覧して頂きホームで行う行事にも参加して頂いている。	地域の行事、事業所の行事に事業所と地域の人々がお互いに参加しており、年々その交流は盛んになってきている。又、町内会でも地域の一員として役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内で行う行事には、近所に直接訪問して参加を呼びかけ、ホームに来て頂き、入居者様の状況を見ていただき、理解を深める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。入居者ご家族、地域包括、今泉区長、民生委員の方の参加が得られており意見等を頂き、サービスの向上に活かしている。	事業所の運営内容(行事、事故、職員研修内容等)の報告と質疑応答、地域の委員からの情報提供等を内容とした会議が定期的に開催されているが地域の委員の出席が少ない。会議資料は委員が意見を出し易いよう詳細な内容になっている。	家族以外の地域の委員の出席が少ない状況にあるため、今後地域の委員の出席を依頼し、多方面の意見が得られるように取り組まれる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や推進会議メンバーより、社会資源についての、情報提供を頂き活用につなげる事ができている。	町の福祉課と生活保護の事案などで連絡を取り合うなど様々な場面で市町村担当者と連絡を取り合い協力関係を深めている。又、地域包括支援センターとの情報交換も行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルにそって全ての職員に身体拘束を理解してもらい、安全なケアを提供している。虐待防止マニュアルを回覧しやすい所に置き、確認しサービスの提供をしている。	職員は様々な機会を捉え学習を重ね、身体拘束の弊害を理解しており、身体拘束の無いケアを実践していると共に、利用者が無断外出等には、近所の人に声掛けや連絡をしてもらえる関係が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルにそって虐待にあたるような行為がないかを確認しながら、介護サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者及び職員が、研修に参加し個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または、改定等の場合家族等にその都度説明を行い同意をえて、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望等について、毎月行われている懇談会にて意見を聞き、イベント等に取り入れたりしている。又、家族の方に運営推進会議への参加又、議事録を送付している。	利用者の意見は日常の会話の他に、毎月実施されている職員との懇談会の中で聞いている。又家族の意見は面会時や運営推進会議、家族会開催時等に聴取し食事の献立や行事等の運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は不定期ではあるが、毎月1回スタッフ会議を開き、意見の取り入れ、職員の個人面談も行っており、苦情、悩み等を聞き一緒に解決できるようにしている。	管理者は日常的なコミュニケーションの中で職員の意見を聞いている。又、スタッフ会議や個別の相談などでも意見を聞き運営に反映している。利用者の支援の為に勤務時間の変更なども職員の意見を反映させたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準については、本社が管理しており、職員の労働時間についての、時間外が発生した場合は、時間外届けを提出してもらっている。職場環境は人員不足時一階、二階で協力体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福島県グループホーム連絡協議会に入会し、職員の能力等に応じて、職場内外の研修を受けており技術や、知識を身につけていく事を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム連絡協議会に入会し職場内外の研修を受けており、技術や知識を身につけると共に交流する機会を作り、サービスの質向上への取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができていないか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスを、つなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との暮らしの中で、家族のように共に支え合う関係作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを実感し入居者に関する情報の共有に努めることで、家族と協働してのケアにつながるよう関係作りを見つけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活習慣を把握しなるべく入居前の生活場面作りと、自宅周辺との、関わりの継続を本人の意志や思いを聞き実行している。	利用者の日常的な関わりや家族からの話を通して、馴染みの関係の把握に努め関係が継続できる様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共有スペースにおいて、過ごすような機会に職員が仲介にはいたりしてお互いに関わりが持ちやすい様、雰囲気づくりに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際に、今後も何か困った事があれば相談にのるという事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日入居者様と懇談会をし思いや意向、希望など取り入れ又、日々の関わりの中から把握に努めている。	毎日の関わりの中から、散歩や外出、買い物やドライブなどの利用者の思いや意向を把握し支援している。意向の把握が困難な利用者については、家族の意向などを踏まえ本人の視点に立って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族から聴き取り暮らしの情報に記入している。又、入居後も本人との会話の中からそしてご家族からもどんな生活をしていたのか聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解し、又、毎日のバイタルチェックにより健康状態の把握に努め、毎日の生活の中で関わりを持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ご家族から思いや意見を聴きケアプランに反映させるようにしている。入居者様ご家族の思いや、要望をケース会議等で、活かしその人らしい生活が出来る様にしている。	利用者、家族の意向を踏まえ、全職員で協議し利用者の現状に即した介護計画を作成している。支援内容も計画に即した個別の実施記録となっている。それらの記録等をもとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事量、排泄等、身体状況及び、日々の生活の様子を記録し、申し送り等にて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて、受診の送迎や、入院時に必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際に地域包括センターの職員や民生委員の協力を得ながら地域のボランティアを利用し、ホームに来て頂き一緒に歌を歌ったり外出して地域行事に参加して楽しい時間を一緒に過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師に受診できるよう、スタッフと一緒に病院に付き添って支援している。	利用者のかかりつけ医の受診を支援している(現在8医院)。受診は職員が対応しており、状態によっては家族も同行している。又、2ヶ所の医院の往診も行なわれており利用者が適切な医療を受けられるよう全職員が支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回医療連携看護師の訪問があり入居者の健康状態を伝えると共に専門的なアドバイスを受け、連携しながら健康支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には頻繁に職員が見舞いに行くよう心がけている。また家族と医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、家族に重度化、終末期についてや意向を確認しながら、行っており、職員全員で率直に話し合い、家族や医師と連携を計り、対応方法の共有を図っている。	事業所として重度化や終末期の指針を作成しており、家族に説明し利用者・家族の意思の確認をしている。さらに今年度から医療連携加算体制も整い、家族の同意書も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルにそって行っている。又、応急手当、普通救命救急講習を全職員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い入居者様の状態を踏まえ避難誘導が出来る様にしている。又地域の方にも協力して頂いている。又災害の発生に備えて、非常食、飲料水、の備品も準備されている。	総合避難訓練を年2回、内1回は消防署立会の下実施しているが地域住民の参加はまだ少ない。又、電気器具等の点検や通報等の訓練を毎月実施している。災害時の食品などの備蓄もしている。	災害時、職員のみでの避難や誘導には限界がある為、より多くの地域の住民や消防団と連携を図りながら防災訓練に取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自室での介助の際は、戸を閉めるなど、の対応をしている。入浴、排泄の際にも本人のみに聞こえるように声掛けしている。	居室へ入室の際同意を得たり、利用者への声かけやトイレ誘導など日常のケアは利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮する対応をしている。また、個人情報等については鍵のあるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定出来る様な場面を作り本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、その時の本人の気持ちを尊重して、個人のペースにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候を踏まえ、本人の好みの服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	会話をしながら食事をとり、また一緒に畑の野菜の収穫も行っている。	事業所では美味しい物を提供することをモットーとしている。栄養士による献立を基本に利用者が育てた野菜も食卓に上る。食事の準備等も利用者の個々の能力を活かしながら、職員と共に行なっている。職員も共に食卓を囲み和やかな食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立にてカロリー計算されているため、バランスよく摂取されている。水分の量も記録され摂取量少ない場合、ゼリー等で工夫し確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて入居者様の習慣となってきた。できない方については職員が義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けし、気持ちよくトイレで排泄できるように支援している。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、排泄の支援をしている。入居時や退院後オムツを使用していた利用者もリハパンや布パンツに改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活チェック表に記録し便秘にならないように、飲食物での工夫で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のその日の希望を確認し入っている。又時間帯についても習慣となった入浴時間に近い時間帯に入浴支援している。	入浴は利用者の希望により支援しており、入浴後は毎回浴槽を洗い消毒している。午前中の入浴希望も多く入浴拒否者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添い、自由に休息し、安心して気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬、又は、主治医の指示について、記録し、全職員が確認し理解している。配薬も複数の職員にて確認、服薬の際は、手渡し、飲み込むまで、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事を活かし一人ひとりの力を発揮してもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態に応じて気分転換に外出できるようにしている。	季節にもよるが、近くのお店に買物ツアーを実施しており、利用者の楽しみとなっている。庭での畑仕事も利用者の日課となっている。また、事業所では季節ごとに外食、花見、ピクニック、ドライブ等の行事を数多く企画し、実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ちょっとした買い物をする事で、楽しめる人もおられるので、本人や家族の意向、本人の希望によりお金を使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等で、家族や大切な人との関係をつなぐ重要な手段なので一人ひとりの希望に応じて外部との交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける臭いなど生活感を感じて頂ける工夫をしている。又、ゆず湯、菖蒲湯、お彼岸など、季節感を意識的に取り入れるようにしている。	共有空間は広く、空調等も適切に配慮され、居心地良く過ごせるようになっている。ソファやテーブルも利用者の状態や季節により配置換えをして気分転換を図っており、利用者が落ち着いてくつろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、テーブルを置き一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士でくつろげるスペースを作っている。和室にはこたつもあり好きな所で過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ダンスや、イス以外にも、それぞれ入居者様の好みやなじみの物など生活スタイルに合わせて用意、写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれて入居者様の居心地のよさに配慮している。	居室にはクローゼット、トイレ、洗面台が備え付けとなっており、利用者のプライバシーに配慮されている。利用者は使い慣れた品を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっており、安心して過ごせるようになっている。各居室とも清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて、浴室や、トイレ、廊下、居室など居住環境が適しているか、見直し、安全確保を自立への配慮をしている。		